

2010.3.10 井上哲士演説会 挨拶原稿

こんにちは。石橋よしえです。

昨年4月の補欠選挙に当選させて頂き、はや1年。この間に4回の議会を経たのですが、たびたび驚いたり怒ったりしています。

まず、質問をしない議員がいることです。この1年間の4議会で、全て質問に立った議員は30名中12名、2回しか質問しなかった議員が4名、この4名の方は4年間通しても質問回数2回から8回です。

そして質問の内容ですが、毎回サッカーの「ガイナーレ鳥取」への支援について質問し、ガイナーレの廻し者かと言われた議員、この方淀江の人ですが、合併後は、税金・保険料負担増えてサービス薄まって、不便になって、と嘆く淀江の人の声など、一回も発言していません。

別の若い議員は、この事業にはこっちの補助金の方が得だとか、この手法を取り入れるべきとか、果てには近年毎年赤字を出している国民健康保険、来年も赤字が出る見込みなのに、なぜ今から国保料を引き上げないのか、と市長に迫る始末です。数の計算ばかりで、何のための誰のための質問なのか、払いたくても払えない市民の姿が見えないのかと、私は怒髪天を衝く状態になりました。

国民健康保険について、私は毎議会質問しました。いかに負担が重いか。やっとの思いで払っているのに徴収員の取り立てがいかに酷いか。払っても払っても追いつかず、病気になっても医者には雇うお金などなく、何日でも寝てるといふ一人暮らしの人。仕事がなく、滞納で保険証取り上げられ、病気を我慢していたが、とうとう痛みで夜も眠れなくなり相談に見えた方もありました。生活保護を受けて頂き、医者には雇ってもらい、その方も私もほっとしました。

国民健康保険の加入者は今、年金暮らしや失業者が増え、収入が乏しいのに他の保険より負担割合が高いのです。滞納せざるを得ない。国が医療を保障するための国民健康保険が、市民を苦しめ、保険証を取り上げて、いのちと健康を差し押さえしています。つぎつぎ届く督促状に追い詰められ自殺してしまった人もあります。「制度は社会全体で支えるもので全ての人に負担して頂く」と市長は言いますが、弱い立場の人を見捨てるなら、政治など要らないではありませんか。

困っている人を助ける、これは日本共産党の活動の原点です。この立場で、議会でも日常活動でも頑張りたい。中海の再生、美保基地の米軍との共用化の問題、などなどしっかり取り組みたいことが益々増えた1年間でした。全力で市議選勝利、参院選勝利に頑張ります。よろしくお祈りします。